

Noah's Ark

ノアズ アーク

知っておきたいキリスト教のことば (160)

ノアの箱舟 のあのはこぶね

「ノアの箱舟」とは、創世記 6～9 章に書かれた旧約聖書の物語です。

ノアはアダムから 10 代目の人物です。そのころ地上には悪がはびこり、神さまは人間を造ったことを後悔されていました。そこで神さまは洪水を起こして、すべてのものを地上から拭い去ろうと決断されます。

しかしその中でノアだけは神さまに従う無垢な人であったので、神さまはノアに目を留め、箱舟を造って家族とそれぞれの種類の生き物を乗せるように命じます。

神さまが造るように命じた箱舟の大きさは、長さ 300 アンマ (135m)、幅 50 アンマ (22.5m)、高さ 30 アンマ (13.5m) にもなり、今の船にすると 50000 トン級になるとも言われます。

その箱舟に家族や指定された動物たちなどを入れると、雨は 40 日間降り続け、150 日間地面が現れることはなかったといえます。箱舟がアララト山に着いたとき鳩を放つと、鳩は二度目にオリーブの葉をくわえて帰ってきました。これで地面が涸れたことがわかりました。

そして神さまはそのような洪水によって世界を滅ぼそうとしたことを後悔され、「もうこのようなことはしない」という契約のしるしに「虹」を架けられたという物語です。

教会の中には、箱舟をイメージして造られたものがあります。また鳩やオリーブを、教会の瓦に彫っている教会もあります。

虹を見るたびに、神さまがわたしたちを滅ぼすことはしないと心に留めておられることを、思い出しましょう。

次回は「陪餐」です。お楽しみに。



「方舟を出た後のノアによる感謝の祈り」

ドメニコ・モレリ

(1823～1901 年)

主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

(創世記 6 章 5～6 節)

